

知力之兜

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

勇者

戦士

魔法使い

僧侶

とあるRPG世界の町のはずれ。勇者、戦士、魔法使い、僧侶が重い空気の中にいる。戦士は今この場に着いたばかりらしい。

戦士 何かあったのか？

魔法 所持金全部つぎ込んで、あの兜を買ったって…。

高価そうな兜を被っている勇者。

戦士 は？

僧侶 ちゃんと説明して下さい。

勇者 …(自分に尋ねられてるとわかっていない)。

僧侶 勇者さんに尋ねてるんです。

勇者 これは知力の兜ちりよくと言って、冒険の上級者の間で愛用されていて…。

僧侶 どういうつもりかと聞いてるんです。

勇者 …:というど？

魔法 何故勝手に私達が貯めていたお金を使い込んだのかって聞いているの。

勇者 …:何故私に使われる前に、使わなかった？

魔法 質問に質問で返さないで。

戦士 質問に質問で返さないで。 質問に質問で返さないで。 質問に質問で返さないで。

勇者 装備すると知力が上がるんだ。

魔法 上がらないじゃない！

勇者 …:仲間への愛が感じられない。

僧侶 あなたですよ！ みんなで血と汗流して得た対価をどうしたらそんなバカな買物に

注ぎ込めるんですか。

勇者 何をもってバカな買物と言うんだね君は。

魔法 だから質問に質問で返さないで！

僧侶 何故だろう。その兜を被って、殊更バカそうに見えるのは。

勇者 …:時々誰かに操られてる気がする。コント

ローラー的なもので。

戦士 どうして普通に謝れない！

勇者 そうだな。あの時、私がこの知力の兜を被っ

ていけば、こんな面白い物せずに済んだかも

しれない。

魔法 何そのパラドックス？

勇者 確かに私にも半分責任はある。

僧侶 もう半分もです！

勇者 だが、思い切りの良さを評価してくれても

いいんじゃないか。

魔法 勇者の意味をはき違えてない？

僧侶 魔物でももう少し分別が…。

勇者 私は魔物以下か。

魔法 未満よ！

問。

勇者 …:毎日、四面楚歌ですよ。

戦士 で、おまえの武器はどうしたんだ。

勇者 「勇氣」のことか？

戦士 剣だ！ 銅の剣つるぎ！ 何故持ってない？

僧侶 処分したそうです。

戦士 何故？

勇者 足が出た。

魔法 ハアア？ これからどうやって戦うつもり？

勇者 そこまで考えないと駄目なのか。

魔法 ふざけてるの？

戦士 兜買うくらいなら、どうして剣やムチを買

わなかったんだ。

勇者 剣があっても、命を取られたらお仕舞いじゃ

ないか！

僧侶 ならば何故盾や鎧を買わなかったんですか。

勇者 盾とか鎧があっても頭を噛まれたら終わり

じゃないかあ！ 頭を無防備にするわけに

はいかない。

魔法 そこまでして守るほど価値のあるものを備

えているの？

勇者 どうしてそんな言い方しかできないんだ。私が何をした。

戦士 勝手に兜を買ったのだろ。

勇者 その話は終わったではないか。

僧侶 真っ最中です！

勇者 (ボン) 諷い。

僧侶 今、何と？

勇者 今すぐ売って来なさいよ。その「兜」。

魔法 もう買ってしまったのだからじゃないわよ。売って来なさいって。

魔法 その金で全員の武器と、もう少し丈夫な服を買おう。

戦士 そんなに夜も更けてるんだ。店なぞ開いてるわけないだろ。

勇者 なら開けてもらいなさい。

魔法 そこまでこの世界、融通利かないッすよ。

勇者 いいから行けよ！

魔法 もう今夜は遅い。宿屋に行こう。

魔法 だから泊まる金もないって言ってるの。

魔法 まだ気づいてないみたいだな。あの宿屋、金を払わなくても、勝手に部屋に入れるんだ。だからこっそり泊まってしまおう。

戦士 ちゃんと金払って泊まらねえと意味ねえんだよ。

勇者 何故？

戦士 そういう風になってるんだよ。

勇者 なってるって何なの？ 納得いかない。

戦士 お金払うと何か違うのかよ！

魔法 どうする？ 今晚。

魔法 一人で外に行って何匹か相手をすれば宿代くらい稼げるでしょ。

勇者 (真面目に) では、誰がその役を？

魔法 あんたよ！

勇者 ばかな！

僧侶 もどかしい。

勇者 だから武器がないって言ってるのに。(ねえ)

魔法 素手で戦えばいいでしょ。

勇者 そんなのは勇氣とは呼ばない。君こそ魔法使いならこんな時は率先して行くべきではないのか。…バカか！ 最近の魔法使いて…。

魔法 魔法、勇者をビンタ。

勇者 (ボン) 1のダメージ。そう率先したか…。

魔法 魔法、勇者を蹴り続ける。戦士も僧侶も参戦。

勇者 痛い。ちよ、やめ、ちよ。ちよと。ごめ、うわああああ！

勇者 何だこれは！ 呪いの兜か？ 友情パワーを引き裂く呪いが出るぞ。この兜から！

魔法 あんたからよ！

勇者 …。

戦士 良く言えば…、人でなし？

勇者 そういう不意な発言が、イジメ問題の温床になってると思います。

僧侶 どうしてこんな人が勇者なんだ！

勇者 こんなに価値観がバラバラで魔王が倒せるか、否！

魔法 あんたひとりずれてるの！ 私達三人は大体揃ってるから。

勇者 数の論理か。

戦士 貯めるのにどれだけかかったかわかってんのか。もう何も買えないんだぞ。どうしてそんなもの買ったんだ！

勇者 約束を果たすためだ！

魔法 ？

勇者 …私の父は、剣士だった。魔物退治を生業としてた。私は幼い頃体が弱く、頻繁に医者にかかっていた。

勇者 そのため、家は貧しく、父は私の業代のために、より危険な魔物を相手にしなければ

勇者、全方位型反撃。兜を外す。

重々しいBGM。

三人

勇者

ならなかった。物欲のない父だったが、あの町の防具屋に立ち寄った時、ずっとその知力の兜を欲しそうに眺めてたのを覚えている。私が生まれてすぐに亡くなった母親が、生前よく言っていたそうさ。知力の兜を被る父の勇姿をいつか見られるのを楽しみにしていると。ある冬、私の体の具合が悪化し、王家御用達の医者に診てもらったため、巨額の報酬を謳った魔物征伐依頼のピラを手には、父は山へ入って行った。三週間、戻って来なかった。ようやく国王軍が重い腰を上げて、魔物狩りが行われた時、父は遅すぎる下山をした。父は、魔物に頭を嚙られ、鼻から上がなかった…。

それからずっと孤独だった。そして、国王軍が倒したと思われたあの魔物が生きていることを知って、私は旅を始めた。しかし、最近になって旅の仲間ができて…。毎日いろんなことがあるうちに、大切なことが薄らいでしまっていた。今朝、防具屋でその兜を見つけたとき、私はようやく取り戻した。変わり果てた父に再会した時に立てた誓いを。どんな卑劣なことをしても、父が欲した兜を手に入れ、あの魔物を倒し、父と母の墓前にその亡骸を捧げると。って、君達にしても無駄か、こんな作り話！

問。

戦士

…作り話じゃなあ…。

本気にして目が潤んでいる魔法使い。

魔法

え？ 嘘？

勇者

…うん。…すまない。

魔法

…。

勇者

…この兜を被ってたら、口からスラスラと出鱈目が…出たね。

しーん。戦士、立ち上がり、勇者の肩を叩く。

戦士

…いっぺん嚙られて来いや。

戦士、去る。

魔法

…死んで治るバカもあるかも知れないから。

魔法使い、去る。勇者も去りかける。

僧侶

…私の父も。

足を止め、振り返る勇者。

勇者

…バカだったのか？

僧侶

王家に仕える医者でした…。

勇者

？

僧侶

今の話と同じような子供を助けたことがあるそうです。その子供の手の甲には風の紋章が刻まれてたそうです。

勇者の手の甲には「6と9が合体したような紋章」(おもちや売り場参照)

勇者

…。

僧侶

…その魔物、ひとりで行くつもりですか？

勇者

みんなを巻き込むわけにいかない…。さ、別れも済ませたし。

勇者、歩いて行く。

僧侶

勇者さん？

勇者

…元気で。

僧侶

父も…。

勇者

…？

僧侶

…父もその約束の話を聞いて、少年が旅立つ日、知力の兜を持たせたそうです。けど翌日、町の老人が高く売りつけられたって！

珍妙な緊迫感の中向かい合う二人。不敵な笑みの勇者。終わり。